

教科化に向けて「今、すること」

～子どもとつくる英語授業に向けて～

PROFILE

〈監修〉

影浦 攻

かげうら おさむ

(鹿児島純心女子大学副学長・教授／宮崎大学名誉教授)

広島大学卒業。教諭(鹿児島中央高校、広島大学附属中・高校、鶴丸高校)の後、鹿児島県教育庁指導主事、文部省(当時)教科調査官、宮崎大学教授(その間、附属中学校長、附属小学校長を歴任)、鹿児島純心女子大学国際人間学部長を経て現職。

『小学生のえいご Book1～3』(啓林館)、『新しい時代の小学校英語指導の原則』(明治図書)、『改訂英語科新授業の実践モデル20』(明治図書)、『小学校教師の基本教室英語96選』(明治図書)、他多数。

〈連載第9回執筆〉

池田 あゆみ

いけだ あゆみ

(京都光華中学校教諭)

京都の公立小中一貫校で勤務の後、現在校勤務6年目。昨年度まで文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」研究校の指定を受け、4年間推進リーダーとして研究に携わる。現在、国際部部長、中学部副部長、小中英語推進部長として勤務。

① はじめに

現在の勤務校は、幼稚園から大学院まである総合学園です。昨年度まで文部科学省より外国語教育強化地域拠点事業研究校の指定を受け、小中高一貫した英語教育を構築するために研究に携わってきました。今年度は中学1年生・3年生の英語授業を担当していますが、小学校5年生最初の単元の授業を担任の先生と一緒に指導させていただくという、大変貴重な機会をいただきました。

新学習指導要領への移行措置が始まり、新教材が配付される中で、今後は小中高の英語教育も大きく変化してきます。そこで、「今、何をしていけばよいのか。」「何をすべきなのか。」を本校の取組も交え、考えていきたいと思います。

② クラスルーム・イングリッシュを使おう

英語を話すことにためらいを感じている先生もおられることだと思います。教科化に向けて、自身の英語力を少しずつ向上させていくことも大切です。新教材『We

Can!』には豊富な映像や音声があり、教師用指導書にはQRコードやそのスクリプトも載っています。また、文部科学省の『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』にもクラスルーム・イングリッシュや基本英会話が掲載されています。それらを参考にして音声をまね、授業の中で使ってみるとことから始めてはいかがでしょうか。毎日の積み重ねが、教室で即座に英語が出てくることにつながっていきます。また、それらを掲示物にして、児童と一緒に使ってみるのもいいと思います。先生も英語を使うモデルとなっていくことで、児童も積極的に英語で会話を楽しむ姿が見られるでしょう。

本校の小学校では、
教室英語100文を厳選
し、「クラスルーム・イン
グリッシュ100」として、
英語担当が、担任や教



員に配付しています。これを毎日の職員朝会で教員が輪番制で読み上げ、全員で唱和しています。継続することで担任も英語の授業で、児童への指示を英語でするこ

とに抵抗感が少なくなり、英語力向上が図れます。

③ 授業づくりのポイント

学年が上がるにつれ、ゲームやチャンツでは物足りなくなります。英語を使って伝えられた喜び、伝え合う喜びが、次の活動へのモチベーションを高めることにつながっていきます。ここでは実践したことをもとに、授業作りのポイントをいくつか挙げたいと思います。

(1) 単元のゴールにある児童の姿を意識しよう

授業づくりとして、単元のゴールでの児童の様子や状況を想定して、児童がやりとりの中で使うであろう表現を考えます。以下の図は、4月に5年生の単元「自分のことを伝え合おう」の最終時間にペアで行う会話を想定したものです。

5年生 「自分のことを伝え合おう！」

Hello.
I'm Ayumi. A-y-u-m-i, Ayumi. Nice to meet you.

I like
Do you like ()?

I like ().
What () do you like?

My birthday is ().
When is your birthday?

I want () for my birthday.
What do you want for your birthday?

Thank you (for listening).

教員用

児童が発話するであろう表現を想定してみる。
児童には提示しない。

5年生 「自分のことを伝え合おう！」（聞き手）

How do you spell your name?

Do you like ~?
What () do you like?

What () do you want?
When is your birthday?

What do you want for your birthday?

Nice name!
Me, too. That's nice. Oh, really?
I see.など

教員用

児童が発話するであろう表現を想定してみる。
児童には提示しない。

想定したゴールでの児童の姿を思い浮かべ、指導者は毎時間、それらの表現を1つずつ入れながら授業を進

めていきます。学習した表現の積み重ねが単元のゴールで使えるようにしました。

5年生 「自分のことを伝え合おう」
【各時間に入れるメインの表現（例）】

ゴール 7時間目	今まで学習してきた表現を使って、友だちとやりとりする。
6時間目	今までの表現
5時間目	I want () for my birthday. What do you want for your birthday?
4時間目	My birthday is (). When is your birthday?
3時間目	I like (). What () do you like?
2時間目	How do you spell your name?
1時間目	My name is (). I am (). I like (). Do you like ()?

毎時間学習した表現を積み重ねて、ゴールでそれらを使ってやりとりする

下の図は、2時間目の授業で、児童のやりとりを想定したものです。

2時間目（教員用）

Hello.

児童が発話するであろう表現を想定してみる。
児童には提示しない。

How do you spell your name?

H-a-r-u-k-a, Haruka.

How do you spell your name?

K-e-n-j-i, Kenji.

I like English. Do you like English?

単元の最終では、ペアを変えながら、学習した表現を活用して、1分間程度で自分のことをお互いに伝えました。活動の前半と後半の間には中間評価を行いました。児童からは「～さんの話し方がよかったです。」「もっと話せると思う。」「2分間にしよう。」などの感想が出て、後半の活動では、会話がどんどんつながっていました。こちらの予想以上に児童は積極的に活動に取り組み、指導者として、その姿を見て嬉しく感じるとともに新たな発見をすることができました。そして、児童とつくる授業の大切さを実感しました。

(2) やりとりを続けるコツを知ろう

児童はやりとりをする中で、今まで知らなかつた言葉

の言い表し方を知ったり、友達について新たな発見をしたりしていきます。そのため、やりとりを続けるための「聞き手としての話し方」を指導者が意識しておくと、Small Talkでも有効に使うことができると思います。それらの表現を自然な形で児童に慣れさせて、即興で使えるようにしていきたいものです。

本校の中学校では「アクティブ・リスニング」を導入し、会話を続けるための「聞き手としての話し方」を教えています。相手意識をもった聞き方には「うなずく・同意する・関心を示す・聞き返す・確かめる・相手の話を促す・相手が返答に困ったら助ける・元気づける・質問する」などいろいろあります。



上の図は小中共通の「話す時の心構え」と、中学校で指導している「Active Listening」です。中学校ではパターン化して教えますが、小学校では新教材のチャンツや映像などの中に入っています。それらの表現を繰り返し聞き、「聞き手としての話し方」が自然と身につくようにしていくのがいいと思います。

例えば、新教材『We Can!①』Unit4 “Let’s Chant: What time do you get up?” のチャンツでは、

I get up at six. (Oh, I see.)

I get up at seven. (Oh, me, too.)

その他にも

Oh, really? So do I. Oh, no! That's bad.

などの表現が出ています。

また、Unit6 “Let’s Chant: Where do you want to go?”

や “It’s a nice country.” のチャンツでは、

児童1: I want to go to France.

児童2: You want to go to France?

(相手の言ったことを繰り返す表現) や

I want to see the Eiffel Tower. (That sounds great.)

You can see the Eiffel Tower. (A great Tower.)

You can buy chocolate. (A nice gift.)

などがあります。

このように、チャンツの中で「聞き手としての話し方(太字斜体)」が出ており、繰り返し口ずさむことにより、聞き手としての表現が身につき、即興で応答できるようになります。Unit1の映像では2人が会話をする中に No, not really. Oh, yes. A new soccer ball? などもあり、指導者がこれらを参考に普段の授業で使ってみるのもよいと思います。

(3)振り返りシートを活用しよう

毎時間の振り返りや単元の最後の振り返りは、次回の授業づくりをする上で役に立ちます。毎回、振り返りシートを使って、「何ができるようになったか。」や「授業の感想(コメント)」「こんなことを言いたい・聞きたい。」などを、児童が書きます。教員はそれを読んで次回の授業や単元づくりをしていきます。

本校の児童の振り返りには、「好きなものを友達に聞けるようになれて嬉しかった。」「今日は少し難しかったです。」「少し会話ができるようになったような気がする。」「次回の授業が楽しみです。」などがあり、それらを参考に、授業をつくってきました。

特に「今日は少し難しかったです。」と書いてあれば、次回の授業では、もう一度その表現を異なったアクティビティで試してみるなど、次の授業の組み立てを考えました。

単元の最終で行ったアクティビティの振り返りをいくつか紹介します。

児童自身の振り返りでは、「外国の人が来ても話ができるような気がした。」「英語で話すことができて嬉しかった。」「2分間も友達と会話が続けられてびっくりした。」「もっと話せるようになりたい。」などがありました。友達のことについての振り返りでは、「自分が困ったときに友達が会話を助けてくれた。」「友達がどんどん質問をしてくれて話しやすかった。」「意見が一致して“Me, too.”と言ってくれたのが嬉しかった。」「友達の話す表情がよかったです。」などがありました。

【話す時のルール】 どれくらい達成できたかな？（☆をねろう！）	
S 相手に伝わるように分かりやすく、はっきりと話せた。	☆☆☆☆☆
H にこやかに笑顔で話せた。	☆☆☆☆☆
A きちんとした態度で話せた。	☆☆☆☆☆
R 問を取るなど、相手の様子を見ながら話せた。	☆☆☆☆☆
E アイ・コンタクトを意識して話せた・聞いた。	☆☆☆☆☆

「自己紹介」をした感想を書こう！

- *自分のがんばったところ、こうすればよかったなど
- *友だちの発表を聞いてよかったところ。
- *英語で言いたかった表現など



「こんなことを英語で言いたい。」「英語でどう聞けばいいのかな。」など、児童の思いを大切にし、クラスの児童に合った単元になるようにアレンジを加えていくことも大切です。普段から児童と一緒に過ごしている学級担任だからこそ、児童の興味・関心に応じた授業づくりができます。他教科との関連も視野に入れ、ぜひ、児童の意見も取り入れた、わくわくするような単元づくりを目指してください。

(4)音声から読むこと・書くことへつなげよう

本校では、段階的に読んだり、書いたりする活動を取り入れています。児童の様子を見ながら、負担のないように、音声で十分に慣れ親しんだ語句や文を、読んだり、書いたりするようにしています。文字が自然と目に入るように絵や写真に文字をつけたり、児童が必然的にそれらを使って書く場合には、4線で文字を表示し、語句の中から選んで、書き写したりすることができるよう

ています。

また、5年生では、文字に親しめるように「オリジナル英語辞書をつくろう」という単元を設け、グループで簡単な単語集を作成し発表します。「文字の集まり=単語」、「単語の集まり=文」を指導者が意識しながら指導しています。絵本やジングルも役に立ちます。また、「Hi, friends! Plus」やそのワークシートも有効な手段です。

実践例 「読むこと」「書くこと」〈高学年〉

①絵本の読み聞かせ
音声からスムーズにインプットを行う。絵本の中で文字に触れる。

③見て書く
辞書を使い4線に書き写す
オリジナル辞書づくり

②アルファベットジングル
授業で少しずつ導入

④繰り返し学習したことを、思いを入れて書く

習った語句を使って自分の思いを書く

文字に親しみ、最終的には複数の英文を推測しながら読む活動や「Let's Read and Write.」も使いながら、毎時間に1文程度、書き写したりして、単元の最終には積み重ねたものをまとめ、一人ひとりが書いたものを他の人に読んでもらう活動もできると思います。

④ おわりに

小学校の英語教育が大きく変わる中で、まずは、中学校英語科教員も小学校英語について知り、小中高の接続をより意識した授業づくりを心がけていく必要があります。小学校でつけた力をより伸ばせるように、児童生徒が達成感・成就感をもてるような授業づくりをこれからも考えていきたいと思います。

引用・参考文献

- ・文部科学省(2018)『We Can!』
- ・文部科学省(2018)『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』